ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第三條　送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ間稅署長若ハ間稅分署長ニ差出スヘシ

第四條　市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ其旨ヲ間稅署長若ハ間稅分署長ニ報告スヘシ

○大藏省令第三十一號　二十三年十一月十日

間接國稅犯則者處分法施行細則

第一條　間接國稅犯則者ノ處分ハ其犯則發覺ノ地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ爲スヘシ但犯則ノ地ト犯則發覺ノ地ト其管轄官署ヲ異ニシ犯則ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯則ノ地ヲ管轄スル間稅署又ハ分署ニ移スヘシ

第二條　數箇ノ間稅官署ノ管轄區域內ニ於テ同一ノ犯則ヲ爲シタルモノアルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第三條　一稅則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一箇ノ罪若シ間稅署ノ處分權限ニ屬スルトキハ其他ノ罪モ間稅署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ

第四條　間稅官吏犯則事件ノ證憑集取ヲ爲スニ際シ若クハ間稅署長又ハ分署長ニ於テ犯則事件ヲ調査スルニ當リ其事件ニ牽連スル他ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキハ其普通犯罪ハ管轄裁判所ニ告發シ其犯則事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用ユルモノヲ除ク外處分法ノ定ムル所ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

第五條　處分法第十一條第二項ノ合計價額ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定セサルモノハ其罰金ノ最多額ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價額ハ間稅官吏ノ見積リ價額ヲ以テ之ヲ算スヘシ

第六條　間稅官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實參考トナル

ヘキ事物ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ問税署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第七條　問税官吏ハ犯則物件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ相當ノ者ヲシテ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ

第八條　問税官吏犯則事件ノ搜査ニ著手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證憑不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲サヽル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ附シ直チニ之ヲ問税分署長ニ差出スヘシ

第九條　犯則處分ニ關シ問税官吏ヨリ問税署長ニ差出スヘキ書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ

第十條　問税署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルニ當リ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ問税官吏ヲシテ之ヲ集取セシムヘシ

第十一條　問税署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルモ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作リ之ヲ本人ニ送達スヘシ

第十二條　第十一條ニ據リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條ノ費用ハ之ヲ徵收セサルモノトス

第十三條　（二十六年六月大藏省令第十一號ヲ以テ本條刪削）

第十四條　處分法第十一條ノ沒收ニ該ル物品ニシテ市町村吏員又ハ鄰佑若クハ本人ニ預ケタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十五條　問税署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領收シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引繼クヘシ

第十六條　處分法第十一條ノ罰金其他ノ收入金ハ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第十七條　處分法第十二條ニ揭ル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ

第十八條　間税署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯則者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ之ヲ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領收證ハ即日之ヲ通告書ヲ發シタル間税官署ニ發送スヘシ

第十九條　間税署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄間税分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

間税署長ニ於テ各分署管轄内ニ在ル犯則者ニ通告ヲ爲ス場合モ亦同シ

第二十條　間税署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキハ該通告書ノ謄本ヲ犯則者所在地ノ間税分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方ヲ同署ニ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ犯則者期限内ニ通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ之ヲ通告書ヲ發シタル間税官署ニ報告スヘシ

第二十一條　處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ依ルヘシ

第二十二條　凡ソ犯則處分ニ關スル書類ニハ毎葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ挿入削除若クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シタルモノハ其ノ字体ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ

第二十三條　間税分署長ハ其管轄内ニ於テ處置シタル犯則事件ノ處分表ヲ調製シ毎月五日限管轄間税署長ニ報告スヘシ

第二十四條　處分法第一條第三項ノ間税官吏タルノ證票同第十一條ノ送達書同第十二條ノ納證施行細則第二十三條ノ犯則事件處分表ハ第一號ヨリ第四號マテノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第一號樣式

用紙厚紙縱二寸横一寸五分

表

第何號
證票
間税署之印

裏

間税官吏
府縣何收税屬何某
印

第二號樣式

送達書

一（送達スヘキ書名）　一冊
一（同）　一通

右使丁ヲ以テ（何府縣下何郡何町村何番地何某ヘ）送達セシムル者也

明治何年何月何日

何府縣（何間税署長）（何間税分署長）　何間税（分）署之印

官氏名印

送達シタル月日時	受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其理由
送達シタル場所	
同居人若クハ市町村長ヘ書類ヲ渡シタルトキハ其理由	

右致送達候也

使丁氏名印

割印

送達書

一（送達スヘキ書名）　一冊
一（同）　一通

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其理由

右使丁ヲ以テ（何府縣下何郡何町村何番地何某ヘ）送達セシムル者也

明治何年何月何日

何府縣（何間税署長）（何間税分署長）　何間税（分）署之印

官氏名印

送達シタル月日時	
送達シタル場所	
同居人若クハ市町村長ヘ書類ヲ渡シタルトキハ其事由	

右致送達候也

使丁氏名印

此ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ一葉ヲ間税分署長ヘ還納スヘシ

第三號樣式

納證

一金何程　何々
一金何程　何々費
一何々　若干（目錄ノ通）

右ハ私何々税則違犯事件ニ付年月日付通告書ニ對シ納付仕候也

納人

年月日

何間税(分)署長宛

住所

氏名　印

第四號樣式

明治何年何月分犯則者處分表

何間税分署長

官　氏　名　印

犯目	犯則年月日	受理月日	通告月日	罰金	金額	沒收	物件	追徵	金額	罰科金納否	裁判所へ告發月日	犯則者住所	同上人名
何税則第何條	何年何月何日	何月何日	何月何日	何拾何円	何々何箇何	何拾何円	納不納	何円何拾何円	納	何月何日	何月何日	何國何郡市町村番地	何某
合計				何拾何円	何百何拾何点	何円何拾何錢						何人	
総件數	前月分越高	新受	既濟	未滯									
、、、、	、、、、、、、	、、、、、、、	、、、、、、、	、、、、、、、									

凡例

一檢舉者ヨリ直チニ告發シタルトキハ本表受理月日通告月日ノ欄ヨリ罰科金納否ノ欄マテ斜線ヲ施スヘシ

一受理シタル犯則事件ニシテ罪トナラス若クハ何々ト認メ棄却シタルモノハ本表受理月日ノ下欄ニ棄却ト記シ以下裁判所ヘ告發月日ノ欄マテ斜線ヲ施スヘシ

○間接國税犯則者處分法及同施行細則ニ關スル樣式ノ件　二十三年十一月主税局長通牒

間接國税犯則者處分法及同法施行細則追々發令相成候ニ付テハ右ニ關スル樣式各地區々ノ取扱ニ相成ラサル樣致度候間御參考迄ニ別紙及御送付候也

(別紙)

第一號樣式

間接國税犯則者處分法及同施行細則ニ關スル樣式

臨檢調書

（後見人アルトキノ例）何府縣何國何郡市何町村何番地
職業（稅則ニ付テノ職業）
身分　何　某（何某後見人）
何年何月　何　某
何年何月

右ノ者何稅則違犯ノ所爲アリト認知若クハ思料シ（又ハ檢査スルニ方リ何々ノ廉發見シ）タルニ付明治何年何月何日同人家宅若クハ場所ニ臨ミ本人又ハ何某ヲ立會ハセ取調ヲ爲ス左ノ如シ

一家宅搜査中本人又ハ家族何某始終案內ヲ爲シタリ（其搜査ノ手續實況ヲ詳記スヘシ）

二家宅內又何場所ニ於テ何々証據物件ヲ發見シ之ヲ差押ヘタリ（其發見ノ摸樣物件ノ數量并差押ノ手續ヲ詳記スヘシ）

三犯則ノ事實幷ニ證據物件ニ付本人何某ニ對シ左ノ問答ヲ爲シタリ

問　云々

答　云々

右取調ハ何月何日午前後何時ヨリ着手シ同日午前後何時ニ終レリ依テ此調書ヲ作リ本人若クハ其他ノ立會人ニ讀聞カセ共ニ署名捺印スル者也

何地稅務署
問稅官吏
官　氏　名　印
立會人
住所職業身分
氏　名　印

年月日　署印（朱印）

（本人ナレハ住所身分職業ヲ記スルヲ要セス）

附記例

一立會人氏名ヲ自書セス又ハ自書スル能ハサルトキハ代書ノ事由ヲ記ス

ヘシ

一出張先ニ付官署ノ印ヲ押捺スル能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

第二號樣式

尋問調書

明治何年何月何日何某ノ何稅則違犯事件ニ付何場所ニ出張シ證人何某ニ對シ尋問スル事左ノ如シ

問　證人ノ氏名年齡身分職業住所出生ノ地ハ如何

答　何々

問　證人ハ何々セシヤ

答　何々

右尋問及陳述ヲ何某ニ讀聞カセタル處毫モ相違ナキ旨申立ルニ依リ何某ト共ニ署名捺印スル者也

何地稅務署

間稅官吏

年　月　日　朱印　署印

何地ニ於テ　官　氏　名　印

（證人）氏　名　印

附記例

一本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

一出張先ニ付官署ノ印ヲ押捺スル能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

第三號書式

證據物件差押目錄

一何々　何程

一何々　何程

右ハ明治何年何月何日何某何稅則違犯事件ニ付本人（何某）方臨檢ノ際發見シ何々違犯ニ關スル證據物件ト認メ之ヲ差押ヘ此目錄ヲ作ル（リ謄本ヲ何某ヘ交付スル）モノ也

年　署印　月　日　朱印

何地稅務署
問稅官吏
官　氏　名　印
立會人
氏　名　印

附記例

一謄本ヲ交付スルトキハ收稅官吏其官印ヲ以テ之ニ割印スヘシ
一出張先ニ付官署ノ印ヲ押捺スル能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

第四號樣式

印紙　預リ證

一何々　何程　但封印ノ儘
一何々　何程　何々

右ハ明治何年何月何日何某方ニ於テ何某何稅則違犯事件ニ係ル證據物件（又ハ何々）トシテ御差押ニ相成保管可致旨命セラレ正ニ御預リ申候尤モ御用ノ節ハ何時ニテモ差出可申候也

何府縣何國何郡何市（町村）吏員
（又ハ何市町村何番地）
何　某　印
（鄰佑若クハ本人）

問稅官吏
官氏名宛

第五號樣式

領收證

一何々　何程
一何々　何程

右ハ何某何稅則違犯事件ニ係ル證據物件正ニ領收候也

年月日
何稅務管理局（署）印
問稅官吏
官氏名宛

第六號樣式

鑑定書

自分儀何々ノ鑑定ヲ爲ス可キ旨ヲ命令セラレタルニ依リ左ノ如ク鑑定ス

一何々ノ方法ヲ施シ何々シタル處何々(理由)ナルニ何々(性質)ナルコト明白ナリトス

右之通相違無之候也

年月日

住所

職業
身分

氏名　印

第七號樣式

處分請求書

何府縣何郡市何町村何番地

職業(稅則ニ付テノ職業)
身分

何　某

何年何月

(後見人アルトキノ例)何某後見人

何　某

何年何月

明治何年何月何日同人ニ於テ何稅犯則ノ所爲アリト認知(又ハ思料)シタルニ付何場所ニ出張シ取調候處(何年何月何日檢査ノ際又ハ何場所若クハ途上ニ於テ何稅犯則ノ所爲ヲ發見)何々(其場ノ景狀ヲ詳記スヘシ)ニ付即チ犯則者何某又ハ證人何某ヲ尋問シタル處別紙調書ノ如ク其犯情ヲ自認(證言)セリ(又ハ强辯其罪ヲ掩フト雖モ其犯情ノ明確ナルハ何々ニ由リ(其證憑物件ヲ說明スヘシ)之ヲ見ルニ充分ナリトス)

右何某ノ所爲ハ明治何年何月何日法律第何號(又ハ何號布告)何稅則第何條ニ違犯シ同則第何條ニ依リ處分セラルヘキモノト認定スルニ付一件證憑書類目錄ノ通差出候條相當御處分相成度此段及請求候也

年月日

何地ニ於テ

何税務管理局(署)長官氏名宛

問税官吏

官　氏　名　印

目　錄

一第一號　臨檢調書
一第二號　尋問調書
一第何號　何々
一第何號　何々
右之通候也

問税官吏

官　氏　名　印

第八號樣式

通告書

何府縣何郡市何町村何番地
職業身分
何　某　何年何月

右ノ者何税則違犯事件問税官吏官氏名ノ處分請求ニ依リ調査スルニ何某ハ年月日何處ニ於テ何々セシモノナリ

右ノ事實ハ問税官吏ノ臨檢調書證人何某ノ尋問調書並ニ差押ヘタル何々等ニ徵シ其證憑充分ナリトス

右所爲ハ何年何月法律第何號又ハ何號布告何々税則第何條ニ違犯セシモノニシテ同則第何條何々トアルニ該當スルモノトス依テ其罰金額又ハ科料金ノ範圍內ニ於テ罰金又ハ科料ニ相當スル金何圓及沒收ニ該ル何々物件又ハ物件賣拂代價金何圓ヲ納メ仍ホ何々費何圓ヲ當税務管理局(署)ヘ納付スヘシ

但七日以內此通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ裁判所ニ告發スヘシ

右問接國税犯則者處分法第十一條ニ據リ通告ス

年月日

第九號樣式

通告書

何府縣何郡市何町村何番地
職業
身分
何　某
何年何月

何稅務管理局(署)長
官　氏　名　印

明治何年何月何日間稅官吏氏名ニ於テ右何某ニ對シ何稅則違犯ノ廉アリト思料シ處分請求ニ及ヒタル事件調査ヲ遂クル處犯則ノ證憑充分ナラス(又ハ其事件罪ト爲ラス若クハ公訴ノ時効ニ罹リタリ)依テ該請求事件ハ之ヲ棄却ス

但犯則物件トシテ差押タル何々ハ還付ス尙ホ封印解封ノ爲メ當該官吏ヲ派遣スヘシ

右通告ス

年　署　朱印
月　印
日

第十號樣式

告發書

何府縣何郡市何町村何番地
職業
身分
何　某
何年何月

何稅務管理局(署)長
官　氏　名　印

右ノ者ニ對シ何々稅則違犯ノ廉ニ付間稅官吏氏名ヨリ處分方請求者之調査ヲ遂クル處犯則事實ノ要領ヲ記スヘシ

右ハ何年何月法律第何號又ハ第何號布告何々稅則第何條ノ違犯者ト認メ明治二十三年法律第八十六號間接國稅犯則者處分法ニ依リ別紙第何號謄本ノ通リ通告ヲ爲シタル處何某ハ期限內ニ之ヲ履行セサルニ付同處分法第十二條ニ依リ

別紙目錄ノ通一件書類等相添及告發候也

何稅務管理局(署)長

朱印

署印

年　月　日

官　氏　名　印

何裁判所

檢事何某宛

別紙

目錄(告發書ト契印ス(ヘシ))

一　第一號　臨檢調書

一　第二號　尋問調書

一　第三號　犯則物件差押目錄

一　第何號　何々

右ノ通候也

何稅務管理局(署)長

年月日

第十一號樣式

告發書

何府縣何郡何市何町何村何番地

職業身分

何　某

何年何月

右ノ者明治何年何月何日何稅則違犯ノ所爲アリト認知(又ハ思料)シタルニ付何場所ニ出張候處犯則ノ事實其他明瞭ニ記載スヘシ

右ノ事實ニ依レハ何某ノ所爲ハ何年何月第何號布告何稅則第何條ノ違犯者ト確認スルヲ以テ明治二十三年法律第八十六號間接國稅犯則者處分法ニ依リ所轄稅務管理局(署)長ヘ處分方請求スヘキノ處本人ノ住所分明ナラス又ハ(本件ハ禁錮拘留ノ刑ニ該ルモノト思料ス)(又ハ何々)ヲ以テ同處分法第何條ニ依リ別紙目錄ノ通一件書類等相添及告發候也

官　氏　名　印

何府縣何國何郡市何町村出張先ニ於テ
又ハ何税務署ニ於テ
間税官吏
官　氏　名　印

朱印
年　月　日
署印

何裁判所
検事何某宛

（出張先ニ於テ作リタルトキノ附記例）

出張先ニ付官署ノ印ヲ押捺スルコト能ハサルニ依リ此旨ヲ附記ス

目録第十號目録様式ノ通

第十二號様式

公賣品代金計算書

一金何程　公賣品代價
内
金何程　何々何箇
金何程　何々何石
一金何程　公賣處分費
差引
殘金何程

右ハ明治何年何月何日何某何税則違犯事件ニ付差押ヘタル物件何某ノ承諾ヲ得テ公賣ヲ爲ス處其代金計算前記ノ通ニ有之殘金ハ供託規則ニ依リ何々金庫ヘ之ヲ供託ス依テ此目録ヲ作ル（リ謄本ヲ何某ヘ交付スル）モノ也

年月日

何税務管理局（署）長
官　氏　名　印

○處分法取扱方　二十三年十二月九日

東京府神奈川縣千葉縣茨城縣栃木縣群馬縣長野縣埼玉縣山梨縣以上一府八縣税務會決議

議決書

一　處分法第一條一項其家宅トハ犯則者自身ノ家屋ニシテ同條二項ハ物件ノミヲ藏匿シタル場合ヲ指シタルモノナルヘシ果シテ然レハ犯則者他人ノ家宅内ニ潛匿シタルトキハ間税官吏其場所ニ立入犯則者ノ取調ヲナスコトヲ得サルカ如シ如何

決　立入ルコトヲ得

二　取消

三　處分法第二條犯則者若クハ犯則ニ係ル物件ニシテ他ノ管轄區域ニ交渉シ證憑堙滅ノ虞アルカ又ハ現行犯者ノ追跡スル場合ノ如キ事緊急ヲ要スルトキハ間税官吏區域外ニ立チ入リ證憑集取ヲ爲シ得ヘキヤ

決　然リ

四　取消

五　署長又ハ分署長處分上直接ニ犯則者又ハ證人ノ陳述ヲ聽クヲ必要トスル場合又ハ第二條ノ受托事件ヲ取調フルニ當テハ之ヲ召喚尋問スルヲ得ルヤ

決　問税官吏ニ囑托スヘシ

六　處分法第四條親族ノ種類ハ細則第二十一條ニ依リ明ナレトモ右親族中ニハ未丁年者ヲモ包含スルヤ又隣佑ヲ立會ハシムルトキハ婦女若クハ未丁年者ニテモ事理ヲ辨別スル者ナレハ差支ナキヤ

質　御見込ノ通

七　處分法第四條ノ雇人トハ賃錢ノ有無ヲ問ハス總テノ雇人ヲ指稱シ且ツ俗ニ居候又ハ食客ト唱フル者ノ如キモ立會ヲ爲サシムルヲ得ルヤ

質　御見込ノ通

八　處分法第五條日中ヨリ日没マテノ間ニ證憑集取ヲ了ラサルニ店舗ヲ閉タルトキハ一旦之ヲ中止シ翌日再ヒ之ニ着手スヘキモノナルヤ

質　御見込ノ通

九　處分法第六條ノ明文ニ依レハ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クヲ必要トシテ尋問シ得ルハ犯則ノ現場又ハ犯則者ノ家宅ニ臨檢セシ場合ニ限レルモ

ノ、如シ果シテ然レハ如何ナル場合ト雖モ犯則者又ハ證人ヲ問税官吏ニ召喚シテ尋問スルヲ得サルヤ

決　然リ

十　處分法第六條問税官吏陳述ヲ聽クノ必要ナシト認メ尋問ヲナササルトキト雖モ第九條ニ依リ調書ヲ作リ之ニ本人ノ署名捺印ヲ要スルカ假令ハ無印紙通帳ヲ受取人ノ宅ニテ差押ヘタルトキノ如キハ別ニ調書ヲ作ラサルモ已ニ犯則ノ心證ヲ置クニ足ルト雖モ猶授受者双方ノ調書ヲ要スルヤ

決　然リ

十一　取消

十二　取消

十三　取消

十四　處分法第九條犯則調書ノ謄本ヲ請求スルモノアルトキハ問税官吏ハ其求ニ應スヘキヤ

決　求ニ應スヘキモノニアラス

十五　取消

十六　處分法第十一條ニ調書及其他ノ書類トアルヲ以テ見レハ總テ書類ニ由リ處分スルモノナルヘシ果シテ然レハ犯則物件ハ一切保管ニ付シ假令犯則ニ係ル證憑又ハ參考ノ張簿書類ト雖モ署長分署長ニハ其預リ證ヲ送付シ現物ハ之ヲ差出スヘキモノニアラスヤ萬一處分上現物ヲ檢閲スルノ必要ヲ生シタルトキハ署長分署長ハ之ヲ取寄スルモ差支ナキヤ

決　便宜處分スヘキモノトス

十七　處分法第十一條ニ罰金云々トアレトモ科料ノ明文ナシ然レトモ罰金ニ該ル犯則者ヲ處分シ得テ却テ輕キ科料ニ該ルモノヲ處分シ得サルノ理ナキヲ以テ處分法中罰金トアルハ總テ普通法ノ區分ニ於ケル違警罪ノ科料ヲモ含包スルモノト信ス如何

決　含有ス

十八　處分法第十一條ニ罰金及没收品云々トアリテ追徵金ノ明文ナシ然レ

モ細則ノ犯則者處分表ニハ追徵金ノ目アルヲ以テ見レハ是亦タ處分法ノ處分ニ入ルヘキモノト信セラル果シテ然ラハ罰金沒收品ノ中孰レニ屬スルモノト解スヘキヤ

決　沒收品ニ屬ス

十九　取消

二十　取消

廿一　處分法第十二條ノ處分通告ヲ爲シタル上ハ本條七日ノ期限內ニ時効ノ經過スル場合アリト雖モ處分通告ハ當然公判手續アリタルモノト同視シ刑事訴訟法第十一條ノ規定ニ從ヒ之レカ時効ノ經過ヲ中斷スルノ効アリト爲スヘキヤ

質　時効ノ經過ヲ中斷スルヲ得ス

廿二　取消

廿三　取消

廿四　取消

廿五　勅令第二條ノ書類ヲ送達スルニ當リ本人頑陋ニシテ書類ヲ受取ルコトヲ肯セサルトキハ處分法第十二條ニ據リ告發スヘキヤ

決　然リ處分法第十二條ニ準スヘキモノナリ

廿六　處分法第十三條通告書ニ擬律錯誤等アルヲ發覺スルモ犯則者既ニ履行シタル以上ハ之ヲ釐正スヘキ限ニアラサルカ若シ之ヲ釐正スヘキモノトスレハ其手續如何

決　釐正スル限ニアラス

廿七　取消

廿八　取消

廿九　取消

三十　取消

卅一　勅令第四條送達シ能ハサル旨ノ報告ヲ受ケタルトキハ署長又ハ分署長ハ該通告書ヲ取消シ處分法第十四條一項ニ準シ裁判所ニ告發スヘキヤ此場合ニ於テハ運搬保管費用及右通告書ノ送達費ハ訴求スルヲ得サ

ル者ナリヤ

質　前段ハ御見込ノ通リ後段ハ訴求スルヲ得ルモノトス

卅二　取消

卅三　取消

卅四　取消

卅五　取消

卅六　處分法第十五條一二ニ當ル犯則者ヲ裁判所ニ引致セントスルモ犯則者病痾急發等ニテ歩行ヲ肯セサルカ又ハ本人無財産ニシテ犯則物件ノ外一物一錢ノ貯ナク車馬賃等ヲ支拂フヘキ資力ナキ者ニ對シテハ如何取計フヘキヤ

質　病氣急發ノ爲メ歩行ニ耐ヘサルトキハ臨機警察官ノ保護ヲ要シテ可然

卅七　處分法第十六條ノ成文ニ依レハ還付セサルモノヽ運搬保管ニ要スル費用ハ官廳ニ於テ支出スヘキハ勿論ナルニ犯則物件ニシテ還付スヘキ

モノト沒收スヘキモノト區分シ難キ場合ニ於テハ實際ノ狀況ニ應シ分署長ノ見込ヲ以テ適宜其費用ヲ定ムヘキヤ將タ分別スヘカラサルトキハ官廳ニ於テ總テ支辨スヘキヤ

質　前段御見込ノ通リ

卅八　取消

卅九　削除

四十　處分法第十六條ノ費用ハ左ノ區分ニ依リ取扱テハ如何

一　書類送達費トハ通告書(有罪ノ)ノ使送料又ハ郵便税書留料但細則第十八條ノ場合署長ヨリ分署長ニ送付スル郵便税ノ如キハ之ヲ省ク

二　運搬費ハ差押ヘタル場所ヨリ保管スヘキ場所マテノ分但本人ニ還付スルトキノ運搬費及署長又ハ分署長ニテ現物ノ檢閲ヲ爲ス爲メ取寄スル運搬費用ハ何レモ之ヲ省ク

三　保管費トハ預リ書調製費(印紙代トモ)又ハ監守人ノ給料藏敷料

等

四　保存費トハ容器損料又ハ其物件ノ消耗腐敗等ヲ防ク爲メ必要ナル費用

質　一項三項四項御見込ノ通二項ハ目下詮議中ニ有之候（第二項ハ十四年三月坤第三三八號通牒アリ）

四十一　處分法第十七條ノ公賣ハ總テ入札ノ方法ニ依ルカ將タ方法及賣却價格等總テ本人ノ承諾ヲ要スルカ

決　總テ公賣ノ法ニ依リ賣却價格等ハ本人ノ承諾ヲ要セス

四十二　處分法第十七條差押物件公賣代金當否ノ判決ハ一ニ間稅署長又ハ分署長ニ在リテ本人ノ承諾ヲ要セサルモノナリヤ

決　然リ

四十三　處分法第十七條ニ依リ物件ノ公賣ヲ必要トスル場合ニ於テ犯則者ノ承諾ヲ要スルトキハ承諾書ヲ徵スルハ勿論ナリヤ

決　然リ

四十四　處分法第十七條ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ犯則者自已モ入札ヲ爲シ差支ナキカ如シ如何

決　差支ナシ

四十五　處分法第十七條ニ依リ公賣代金ヲ供託シ其代金官沒ニ歸シタルトキハ裁判確定マテノ同代金ヨリ生シタル利子ハ犯則者ヘ還付スヘキヤ

決　還付セサルモノトス

四十六　取消

四十七　取消

四十八　取消

四十九　取消

五十　取消

五十一　取消

五十二　取消

五十三　取消
五十四　取消
五十五　取消
五十六　銃獵規則中無鑑札銃獵者ノ如キ賣藥規則中無鑑札營業者ノ如キハ處分法ニ從ヒ處分スヘキ者ナルヤ（是等ヲ處分スヘキモノトスレハ賣藥鑑札ヲ僞造シテ營業シタルモノアランカ其僞造ニ對シテハ刑法犯トシテ裁判所ニ於テ審判シ無鑑札營業ニ對シテハ處分法ノ處分ニ任スルノ結果アルコトヲモ豫想セサルヘカラス）
　質　御見込ノ通リ
五十七　取消
五十八　取消
五十九　細則第七條ノ鑑定人ヲ使用セル場合ニ於テハ里程ノ遠近ニ應シ旅費ヲ支給スヘキモノト信ス右支給ノ程度ハ如何
　決　豫定スルコトヲ得ス

意　本年法律第百二號ニ據ルヘシ
六十　細則第七條ノ鑑定料ハ其物品ニシテ後日本人ニ還付スルモノナルトキト雖モ總テ徵稅費ヨリ支出スヘキヤ
　決　然リ
六十一　取消
六十二　細則第九條經由ノ書類ヲ分署長ニ於テ檢閲シタルトキハ欄外ニ認印シ若シ異見アルトキハ之ヲ添申セシムヘキヤ
　決　認印ニ止メ意見ヲ添付セシムルニ及ハス
六十三　取消
六十四　取消
六十五　取消
六十六　取消
六十七　細則第十五條沒收品ノ領取證ハ間稅分署長ノ名ヲ以テ發スヘキヤ

決　署名ヲ以テスヘシ

六十八　取消

六十九　取消

七十　取消

七十一　取消

七十二　取消

七十三　細則第十九條ニ據レハ間税署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニアルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄間税分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシトアルヲ以テ時トシテ犯則者ト物件ト其所在ヲ異ニシ犯則者ハ甲間税分署ニ物件ヲ差押ヘラレ而シテ第十四條ノ手續ニ據リ保管ノ儘乙間税分署ニ納付スル場合アランカ如斯場合ニ於テハ該物件ノ取扱方ハ如何スヘキヤ

決　總テ書面ヲ以テ主管官吏ニ引繼クヘシ

七十四　細則第二十三條ニ間税分署長ハ月々處置シタル犯則事件ノ處分表ヲ調製スヘキ旨規定セラレタリ右處分表ハ細則第一條ニ據リ其管轄内ニ於テ發覺處分シタルモノト處分方ヲ他ヨリ移シタルモノヲ記入スヘキモノニシテ細則第十九條第二十條ノ如キ處分ハ他ノ間税署又ハ分署ニ於テ之ヲ爲シ單ニ金額物件ノ徴收ヲ取扱ヒタルモノハ記入ニ及ハス其金額物件受入ノ完了ハ移シ越シタル間税署又ハ分署ニ通報シ該署ニ於テ處分表ニ記入スヘキ義ナルヤ

決　然リ

二十四年三月　神奈川縣問合

○犯則物件預リ人ニ於テ要セシ費用支給方

間接國税犯則ニ係ル物件ヲ差押ヘ處分法第七條ニ據リ之レヲ預クルトキ該預リ証調製ノ用紙代及証券印紙ハ即チ處分費トシ其物件本人ニ還付スヘキモノアルトキハ處分法第十六條ノ保管費トシテ犯則者ニ負擔セシメ預リ人ニ對シテハ右代金ヲ徴税費ヨリ支給スヘキヤ果シテ然ラハ其物件沒收ニ該

ルモノナルトキト雖ヒ紙代印紙代ハ當然徵稅費中ヨリ預リ人ニ支給セサルヲ得サル結果ト可相成右ニテ差支ノ筋無之候哉

大藏省主稅局回答　二十四年三月四日

御見込ノ通リ

○東京府外八縣稅務會質議ニ對スル差押物件還付方取扱　三十四年三月十三日坤第二三八號主稅局長通牒

客年十二月九日付ヲ以テ間稅犯則者處分法取扱方ノ義御質問第十六條二項ニ對シ目下詮議中ノ旨及御答置候處右ハ犯則ノ証憑トシテ檢閱ニ必要ナル運搬費ハ處分法第十六條ニ包含スルハ勿論ニ候得共本人ニ還付スル場合ニ於テハ其物件保管ノ場所ニ於テ可引渡筈故實際所用無之儀ト存候此段及御通牒候也

○通告罰科金納期限後納付ノ件　二十四年三月二十七日坤第四六二號主稅局長通牒

間接國稅犯則者ニ於テ間稅官署長ノ處分通告ヲ承諾シ罰金等ヲ納付セントスルニ當リ自然期限經過後ニ至ルモ尙ホ裁判所ヘ告發以前ニ候ハヽ履行セシムルモ差支無之義ト存候間其邊御含相成度此段及御通牒候也

○印紙再貼用犯處分方　（二十四年十月十二日坤第二三四四號主稅局長通牒）

間接國稅違犯事件中印紙再貼用ニ係ル犯罪ハ其主タル印紙再貼用犯ノ決定スルヲ俟テ無印紙犯ノ起ルモノナレハ其再貼用犯ハ裁判所ニ告發スヘキ順序ニ付裁判所ニ於テハ其再貼用犯ヲ處斷スルト同時同裁判所ニ於テ無印紙犯モ併シテ處分スヘキ事ニ大藏司法兩大臣協議ノ上決定セラレ候此段及御通牒候也

○犯則者處分費納付ノ件　（廿六年六月八日坤第一四九〇號主稅局長通牒）

間接國稅犯則者處分法施行細則第十三條ニ依リ處分費訴求ノ手續ニ關シ大臣ヨリ指令相成候向モ有之候處今般省令第十一號ヲ以テ右第十三條削除相

成候ニ付テハ刑事附帶ノ私訴トシテハ訴求スヘキモノニ在サルハ勿論ニ候得共該費用ハ法律上犯則者ニ負擔ヲ命セラレタルモノナルニ被告事件有罪ノ判決ヲ受ケ確定シタル上ハ該費用ノ納付ヲ命シ之ニ應セサル場合ニ於テ民事訴求ノ手續ヲ爲スヘキ筋ニ有之候此段及御通牒候也

○管内ニ限リ處分通告書謄本省略ノ件　神奈川縣稟申

間接國税犯則者處分法施行細則第十九條ニ據リ收税部長又ハ收税署長ニ於テ管轄區域外若クハ各收税署管轄内ニ在ル犯則者ニ對シ處分法第十一條ノ通告ヲナシ仝施行細則第二十條第一項ニ依リ其納付スヘキ金額物件ノ徵收方ヲ所轄收税署長ニ移ストキハ該通告書ノ謄本ヲ送付スヘキノ處右通告書中往々長文ニ涉ルモノアリテ（中略）右手續ヲ踐ムハ實際上困難尠カラス依テ爾後管内各收税署ニ係ル分ハ該謄本ニ換ヘ犯則者住所氏名處分條項罰科金額没收物件書類送達費等ノ要領ヲ摘錄セル通知書ヲ作リ送付セシムルコトニ致度候

大藏省主税局通牒　廿七年四月十一日坤第一五〇八號

謄本省略ノ件聞置ク

○追徵金厘位未滿ノ端數四捨五入ノ件（二十八年五月二十八日福井縣照會）

間接國税犯則者ヨリ追徵スヘキ金員ニシテ厘位未滿ノ端數アルトキ該通告書ニ右金員記載方明治五年太政官達第三百六十三號貨幣計算出納例第二則ニ據リ四捨五入法ヲ用ヒ厘位ニ止メ可然ヤ

大藏省主税局回答　廿八年六月七日坤第二四四〇號

見込ノ通

○處分費收入取扱（二十九年五月廿日坤第六（五三四號主税局長通牒））

間接國税犯則者處分通告不履行ノ結果裁判上有罪ニ確定シタルモノニ對シ處分法第十六條ノ費用納付ヲ命スルハ有罪確定ト同時ニ税外收入調定官ニ於テ之ヲ調定シテ納入告知書ヲ發付スヘキモノニ付其經費所屬モ亦調定以

前ハ徴收費其后ハ二十五年訓令第二五三號ニヨリ支辨スヘキハ勿論ニ有之候此段及御通牒候也

參照

○布告第三十六號　十三年七月十七日

刑法（抄錄）

第一條　凡法律ニ於テ罰スヘキ罪別テ三種ト爲ス

一　重罪　二　輕罪　三　違警罪

第二條　法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三條　法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第五條　此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ揭ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第四十三條　左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一　法律ニ於テ禁制シタル物件

二　犯罪ノ用ニ供シタル物件

三　犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條　法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス

第七十五條　抗拒ス可カラサル强制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出テタル所爲亦同シ

第七十六條　本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セ

ス

第七十七條　罪ヲ犯ス意ナキ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ其罪ヲ定メタル者ハ此限リニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス

罪本重カルヘクシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ス

第七十八條　罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第百條　重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經ス二罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ス

第百一條　違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第百十四條　此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一　祖父母父母夫妻

二　子孫及其配偶者

三　兄弟姉妹及其配偶者

四　兄弟姉妹ノ子及其配偶者

五　父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者

六　父母ノ兄弟姉妹ノ子

七　配偶者ノ祖父母父母

八　配偶者ノ兄弟姉妹及其配偶者

九　配偶者ノ兄弟姉妹ノ子

十　配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

第百十五條　祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異

父異母ノ兄弟姉妹同シ
養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ
第百三十九條　官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可ラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ
第百四十條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
第百四十一條　官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ
第百七十四條　官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封

印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ
第百七十五條　官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又毀壞シタル者ハ盜罪及毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第百七十六條　看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
第百九十五條　各官署ノ印ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス
第百九十七條　御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル僞造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
若シ監守者自ラ犯シタル時ハ僞造ノ刑ニ同シ
第百九十八條　官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及郵便切手ヲ僞造シ變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百九十九條　已ニ貼用シタル各種ノ印紙及郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百三條　官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百五條　官吏其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條　官ノ文書ヲ僞造スルニ因テ官印ヲ僞造シ又ハ盜用シタル者ハ僞造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百三十一條　官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齡職業ヲ詐稱シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十三條　官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條　官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ貳拾圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十六條　官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲スヘキ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百八十四條　官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ所爲ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十九條　官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ增減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條　租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス（此節トアルハ第二百八十九條第二百九十條ナリ）

○司法省達丙第十六號　十四年十二月五日

大審院
裁判所
警視廳
府縣（東京府ヲ除ク）

治罪法中犯人證人等押印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ拇印爲致候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○法律第五十號　三十二年三月九日

第一條　法令ノ規定ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル

捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

第二條　民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ求ムル外國人ハ日本ニ住所、居所ヲ有セサルトキハ其ノ住所又ハ居所アル外國ノ管轄官廳ノ證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

但シ其證明書ニハ日本ニ駐在スル其ノ外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所地又ハ居所地ノ市町村長ノ證明書ヲ以テ前項ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ證明カ不十分ナルトキハ裁判所ハ日本

ニ駐在スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

附則

第三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年七月勅令第三百二十七號ヲ以テ明治三十二年七月十七日ヨリ施行）

○布告第七十二號　十四年十二月二十八日

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條　凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條　凡禁獄及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處ス十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條　罰金及科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條　法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條　法律規則ヲ犯シタルモノニハ刑法再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條　法律規則中罰令アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條　前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スルモノト雖モ「輕罪裁判所」ニ於テ之ヲ裁判ス但「始審裁判所」所在ノ地ヲ除クノ外ハ「治安裁判所」ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

○法律第六號　二十三年二月八日

裁判所構成法（抄錄）

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　區裁判所

第二　地方裁判所
第三　控訴院
第四　大審院

第十六條　區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　違警罪
第二　本刑五拾圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪
第三　刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑貳百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ參百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

前項ノ手續ニ因リ訴追ヲナシ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲナス前何時ニテモ其情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲ス此場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲メ適當ノ手續ヲ爲ス

第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ
區裁判所ノ權限幷ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟
第二　第二審トシテ
（イ）　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴
（ロ）　區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

○法律第九十六號　二十三年十月六日

刑事訴訟法（抄錄）

第一條　公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

第六條　公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一　被告人ノ死去

第二　告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄

第三　確定判決

第四　犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

第五　大赦

第六　時効

第八條　公訴ノ時効ハ左ノ期限ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一　違警罪ハ六月

第二　輕罪ハ三年

第三　重罪ハ十年

第十條　公訴私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

第二十條　官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用ヒ年月日及

場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印スヘシ若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカルヘシ

官吏公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印スヘシ（三十二年三月法律第七十三號ヲ以テ本條中削除）

第二十一條　官吏公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ルニ付文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入、削除及欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印スヘシ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更增減ノ効ナカル可シ（三十二年三月法律第七十三號ヲ以テ改正）

第二十一條ノ二　官吏公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシム可シ

立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印スヘシ官吏公吏ノ面前ニ於テハ本人ノ署名スルコト能ハサル場合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏公吏代署シテ其事由ヲ附記スヘシ（三十二年三月法律第七十三號ヲ以テ追加）

第五十二條　官吏公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發スヘシ

告發ハ官吏公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク証憑及事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ添フ可シ

第九十條　被告人ノ自白官吏ノ檢証調書証據物件証人及鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス

第百二十五條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ証言ヲ拒ムコトヲ得

第一　官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ

第二　（略ス）

証言ヲ拒ム者ハ拒絶ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ疏明スヘシ

○法律第九十八號　三十二年四月十五日

間接國稅犯則者處分法第一條乃至第十九條ノ規定ハ葉煙草專賣法違犯事件ニ準用ス

間接國稅犯則者處分法中間稅官吏ニ屬スル職務ハ葉煙草專賣事務ニ從事スル官吏收稅官吏稅關官吏及警察官吏之ヲ行ヒ間稅署長間稅分署長ニ屬スル職務ハ違犯事件發覺地ヲ管轄スル葉煙草專賣所長之ヲ行フ

第十三章　雜

○法律第十五號　三十二年二月八日

供託法

第一條　法令ノ規定ニ依リ供託スル金錢及有價證券ハ金庫ニ於テ之レヲ保管ス

第二條　金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ差出スコトヲ要ス

第三條　金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス

第四條　金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之レヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條　司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保營スル義務ヲ負フ

第六條　倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣ノ定メタル書式ニ依リ供託書ヲ作リ供託物ヲ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條　倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條　供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ之ヲ還付ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト供託カ錯誤ニ出テシコト其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條　供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其

供託物ハ無効トス

第十條　供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條　本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其ノ施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條　第四條第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條　明治二十三年勅令第百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○大藏省令第六號　三十二年三月十六日

供託物取扱規程

第一條　明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ此ノ規程ニ依テ取扱フモノトス

第二條　此ノ規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場合ニ於テ保管スヘキ金錢、有價證券ヲ謂フ

第三條　供託ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ノ供託書二通ヲ作リ之ニ供託物ヲ添ヘ金庫ヘ提出スヘシ

第一　供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名但シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名

第二　供託セントスル金額

有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ全額拂込未濟ノモノハ券面額ノ左側ニ其ノ拂込濟額ヲ記入スルコトヲ要ス

第三　供託ノ原因（事實ヲ詳記スルノ外利害關係人ノ法律上ノ位置及氏名）

第四　供託スヘキ法令ノ條項

第五　供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ法律上ノ位置（質權者、抵當權者等特ニ其ノ名稱ヲ記スルコトヲ要ス）及氏名住所官廳ナレハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名

第六　供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物

第七　官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其ノ官廳名若シ訴訟ニ關スルトキハ其ノ件名及裁判所名

第四條　金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ要件ノ具備シタルコトヲ認メタル後供託書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ供託者ニ交付スヘシ

第五條　供託物ハ郵便ニ依リ寄托スルコトヲ得但シ供託物カ金錢ナルトキハ供託者ノ危險負擔ヲ以テ銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得

第六條　金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條　供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書二通ヲ作リテ金庫ヘ提出スヘシ

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セラレタル其ノ利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ奥書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ手續ニ依ラス直チニ其ノ利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作リ利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條　金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ償還金ハ代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ

之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ請求者ニ交付スヘシ

前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ利札ヲ交付スヘシ

第九條　供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作リ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫ヘ提出ス可シ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク奥書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一　供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二　法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三　裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其ノ給付ヲ爲シタル金錢、證券若クハ物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲クル者ノ證明書ヲ仍ホ提出スルコトヲ要ス

第一　供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作リタル供託受領ヲ證スル書類

第二　反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ正本

第十條　供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一　債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ表示シタル債權者ノ書面

第二　供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決書ノ正本

第三　第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルトキハ其ノ質權又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類

第四　供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託シタルモノナルトキハ其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シタル書面

第十一條　前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコト能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十二條　金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理由アルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スヘシ

第十三條　裁判所ニ於テ裁判ノ結果等ニ依リ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ受取人ニ交付スヘシ

受取人ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領ヲ證シ供託物ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十四條　金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡證書ト引換ニ供託物ヲ受取人ニ交付スヘシ但シ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク拂渡額ヲ記入シ請求裁判所ヘ返還スヘシ

第十五條　供託法第三條ニ規定スル供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

第十六條　供託法第三條ニ依リ利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ第八號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ提出スヘシ

第十七條　金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行ヘ本支金庫ニ在テハ日本銀行ノ支店代理店ヘ之ヲ回付スヘシ

日本銀行又ハ其ノ支店、代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其ノ現金ヲ交付スヘシ

附　則

第十八條　此ノ規程施行前ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル供託者ハ其ノ金錢證券又ハ物件ノ數量等ヲ金庫ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條　明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程其ノ他此ノ規程ニ抵觸スルモノハ此ノ規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式（用紙寸法美濃判紙數二枚以上ニ及フトキハ契印スヘシ以下之ニ同シ）

供託書（金錢ト有價證券トハ各別ニ作成スルヲ要ス）

府縣郡市町村番地
供託者　何　某

一金何圓也（第三者ニ於テ供託ヲ爲ストキハ供託者第三者ト記入スヘシ）

又ハ

一何々公債證書額面何圓也（全額拂込未濟ノモノハ其拂込額ヲ左側ニ記入スルコトヲ要ス以下之ニ同シ）何圓券何第何番

リ第何番
マテ何枚　又ハ何第何番ヨ

但何年何月又ハ何期渡以降利札付（以下之ニ同シ）

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也　同　記號番號枚數記載方前ニ同シ

一何　々　同　前ニ同シ

供託ノ原因

供託スヘキ法令ノ條項
供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定
反對給付ノ目的物
官廳名又ハ訴訟事件名及裁判所名
右供託ス

年　月　日

何金庫宛

右
何　某　印

（受領書式）

第何號

右受領ス

年　月　日

（奥書ノ式）

前書ノ金額（又ハ有價證券）正ニ領收候也

何金庫　印

年　月　日

何金庫宛

府縣郡市町村番地
受取人　何　某　印

（内渡書式）

内
一金何圓也
又ハ
一何々公債證書額面何圓也
又ハ
一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也
又ハ
一何　々
（種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ本文高書ノ箇所ヘ公債證書其他額面何圓也別紙内譯書ノ通ト記入シ内譯書ト契印スヘシ）

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番迄何枚
同　記號番號枚數記載方前ニ同シ
同　前ニ同シ

右金額(又ハ有價證券)何年何月何日內渡濟

何金庫 印

第二號書式

請求書

(代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

一金何圓也

(所得稅法第三條ノ稅額ヲ控除シ其殘額ヲ記載スルモノトス)

何々公債證書(又ハ何々銀行株券)(又ハ何會社株券)何圓何年何月(又ハ何期)渡利息(又ハ配當金)(又ハ何年何月償還金)何年何月何日第何號供託受領證ノ分

前書金額御受取相成度(又ハ別紙委任狀相添)請求候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 某 印

何金庫宛

(受領ノ書式)

第何號

右代供託物(又ハ附屬供託物)トシテ受領ス

年 月 日

何金庫 印

(奧書ノ式)

前書ノ金額正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 某 印

何金庫宛

(內渡ノ書式)

表書金額ノ內

一金何圓也

右金額何年何月何日內渡濟

(受領證ノ餘白ニ記入シ難キトキハ繼紙ヲナスヘシ)

何金庫 印

第三號書式

利札領收證書

一利札劵面額何圓也　何　枚

但何年何月何日第何號供託受領證ノ何公債證書又ハ何銀行若クハ何會社債劵額面何圓ニ對スル何年何月又ハ何期渡ノ分

右領收候也

年　月　日　府縣郡市町村番地

何金庫宛　供託者　何　某 印

第四號書式

供託物拂渡請求書（供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス）

一金何圓也（幾分ノトキハ請求額ノ上部ニ何年何月何日第何號供託受領證ノ內ト肩書スヘシ）

又ハ　何圓劵何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

一何々公債證書額面何圓也　同　記號番號枚數記載方

又ハ　前ニ同シ

一何銀行又ハ何會社株劵額面何圓也　同　前ニ同シ

又ハ

一何　々　同　前ニ同シ

前書ノ金額（又ハ有價證劵）供託者ノ指定ニ依リ又ハ何年法律勅令何省令第何號ニ依リ若クハ裁判ニ依リ（供託者ニ於テ取戻ヲナサントスル場合ハ何々ノ事由ニ依リ云々ト記載スルコト）拂渡相受度別紙證明書竝ニ供託受領證相添請求候也

年　月　日　府縣郡市町村番地

何金庫宛　受取人（又ハ供託者）何　某 印

第五號書式

領收證書（供託受領證一葉毎ニ領收證書ヲ作成スルコトヲ要ス）

何年何月何日第何號供託受領證ノ內

一金何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何々公債證書額面何圓也　同　記號番號枚數記載方前ニ同シ

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ　同　前ニ同シ

一何　々

前書ノ金額（又ハ有價證券）正ニ領收候也

年　月　日　府縣郡市町村番地

何金庫宛　受取人　何　某　印

第六號書式

請求書（供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス）

府縣郡市町村番地

何年何月何日第何號受領證　供託者　何　某

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也　同　記號番號枚數記載方前ニ同シ

又ハ

一何々　同
内　前ニ同シ
金何圓也
又ハ　何圓券何第何番又ハ何第
何々公債證書額面何圓也　何番ヨリ第何番マテ何枚
又ハ　同
何銀行又ハ何會社株券額面何圓也　記號番號枚數記載方
又ハ　前ニ同シ
何々　同
前ニ同シ

右ハ何々ノ事由ニ依リ内譯ノ通拂渡證發行候ニ付分割拂渡スコトヲ要ス依テ別紙供託受領證相添請求候也

年　月　日

府縣郡市町村番地
受取人　何　某

第七號書式

何金庫宛

裁判所名印
官氏名印

拂渡證書

府縣郡市町村番地
供託者　何　某

何年何月何日第何號受領證ノ内
一金何圓也
又ハ　何圓券何第何番又ハ何第
一何々公債證書額面何圓也　何番ヨリ第何番マテ何枚
又ハ　同
一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也　記號番號枚數記載方
又ハ　前ニ同シ

一何々　同

右金額(又ハ有價證券)府縣郡市町村番地何某ヘ拂渡スコトヲ要ス　前ニ同シ

年月日　裁判所名印

何金庫宛　官氏名印

(奥書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年月日　府縣郡市町村番地

何金庫宛　受取人　何　某印

第八號書式

利息請求書

何年何月何日第何號供託受領證ノ金何圓ニ對スル利息仕拂相成度請求候也

年月日　府縣郡市町村番地

何金庫宛　受取人　何　某印

(利息記入式)

一金何圓也　何年何月ヨリ何年何月マテ　利息額

右ノ通ニ候也

年月日　何金庫印

(現金領收ノ式)

前書之金額正ニ領收候也

年月日　受取人　何　某印

日本銀行本支店
又ハ其代理店宛

○告示第九號　三十二年三月十七日
供託法第三條ニ於ケル供託金ノ利息ハ一箇年三分六厘ト定ム

○法律第六十一號　三十二年三月十三日

關稅法

第一章　關稅ノ賦課及徵收
第二章　船舶
第三章　貨物
第一節　總則
第二節　輸出輸入及積戾
第三節　回漕
第四節　郵便物
第五節　收容
第四章　稅關官吏ノ職權
第五章　異議及訴願
第六章　罰則
第七章　犯則事件ノ調査及處分
第八章　補則

關稅法

第一章　關稅ノ賦課及徵收

第一條　輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定ヲル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

通過ノ爲輸入スル貨物ニハ關稅ヲ課セス但シ輸入ノ際擔保トシテ稅金ニ相當スル金錢其ノ他ノ有價物ヲ提供スヘシ

第二條　輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入免許前ニ限リ

相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條　關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ徵收ス但シ保稅倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫入申告ノ日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ徵收ス

第四條　關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス但シ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル關稅ハ犯則者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條　關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第六條　擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條　關稅ノ徵收權ハ貨物輸入ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス但シ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　關稅ノ過誤納ニ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス

第九條　前二條ノ期限內ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時效ヲ中斷ス

第二章　船舶

第十條　外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ稅關ニ入港屆ヲ爲シ積荷目錄、艙口申告書、船用品目錄及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預クヘシ

第十一條　沿海通航船外國貨物船卸ノ爲開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ其ノ貨物ノ積荷目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十二條　外國貨物ヲ積載セル船舶ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外積荷目錄ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港屆ヲ

爲シ出港免許ヲ受クヘシ

第十四條　外國貿易船貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ出港スルトキハ第十條及第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十五條　沿海通航船外國貨物ヲ積載シテ開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ其ノ貨物ノ積荷目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ積荷目錄ハ貨物ノ船卸ヲ爲スヘキ地ヲ異ニスル毎ニ之ヲ調製スヘシ

第十六條　積荷目錄ハ其ノ提出ノ時ヨリ二十四時以内ニ限リ稅關ノ認許ヲ得テ之ヲ訂正補足スルコトヲ得

第十七條　外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ屆出ツヘシ

第十九條　左ニ掲クル外國貨物ヲ不開港ヨリ開港ニ囘漕セントスル船舶ノ船長ハ稅國官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ

一　假ニ陸揚シタル貨物

二　運航ノ自由ヲ得サル船舶ニ積載セル貨物

三　難破貨物

第二十條　前條ノ貨物ヲ積載シ來リタル船舶開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條　外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條　稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條　本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章　貨物

第一節　總則

第二十四條　貨物ハ開港ニ由ルノ外輸出若ハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲クル場合ハ此ノ限ニ在ス

一　遭難船舶ノ修繕救援若ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ

二　遭難船舶ニ積載セル損傷貨物若ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ

三　遭難船舶若ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四　遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第二十五條　貨物ノ檢査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ヲ稅關ニ送致シ又ハ貨物ノ引取、發送ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　稅關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條　貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ

第二十九條　輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ內國貨物トス

第三十條　貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第二節　輸出、輸入及積戾

第三十一條　貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ第二十四條但書ノ場合ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ檢査及免許

ヲ受クルコトヲ得

第三十二條　輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立テ若ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス

第三十三條　通過ノ爲貨物ノ輸入ヲ爲サントスルトキハ之ヲ輸出スヘキ地ヲ異ニスル毎ニ其ノ目錄ヲ提出スヘシ

第三十四條　輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取リ若ハ通過ノ爲發送スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得稅金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　通過ノ爲輸入シタル貨物ノ運送ハ關稅通路ニ由ルヘシ關稅通路ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　運送人ハ通過貨物ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十七條　輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第三十八條　外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　回漕

第三十九條　內外國貨物ヲ外國貿易船ニ又ハ外國貨物ヲ沿海通航船ニ積載シ開港間ニ回漕セントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ回漕免許ヲ受クヘシ

第四十條　前條ノ回漕貨物ハ回漕免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第四十一條　第三十九條ノ回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ貨物ノ檢査ヲ受クヘシ

第四節　郵便物

第四十二條　郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ

郵便局ヘ通知スヘシ

第四十三條　關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ

前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ

第四十四條　郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ名宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

第四十五條　第一條第二項但書、第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十五條及第三十七條乃至第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節　收容

第四十六條　船積ノ爲稅關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ハ其ノ送致若ハ陸揚ノ時ヨリ七十二時以內ニ引取、船積、發送又ハ保稅倉庫ニ庫入ヲ爲サルトキハ稅關ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ヲ以テ之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條　貨物ヲ收容シタルトキハ三日以內ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條　貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條　前條ノ免許ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以內ニ貨物ノ引取、船積、發送又ハ保稅倉庫ニ庫入ヲ爲ササルトキハ前條ノ申告及免許ハ無效トス

第五十條　貨物收容ノ日ヨリ六箇月以內ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記號、番號、種類、箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以內ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ競賣ニ付シ關稅、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ供託スヘシ

第五十一條　收容貨物腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ競賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條　收容貨物ヲ競賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章　稅關官吏ノ職權

第五十三條　稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得

第五十四條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條　稅關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條　稅關官吏ハ船車ニ乘込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ檢査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條　稅關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコト得

第六十條　前條ノ請求アリタルトキハ海軍艦船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍艦船長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第五章　異議及訴願

第六十一條　關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ文書ヲ以テ稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條　前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ稅關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條　從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ稅關長ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨

物ヲ買上ルカ若ハ評價人ヲシテ評價セシムヘシ

評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス

第六十四條　評價人ハ四人トシ二人ハ稅關長之ヲ命シ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ揭クル者ハ評價人タルコトヲ得ス

一　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二　第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三　剝奪公權者及停止公權者

四　當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其ノ評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價價格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス

第六十六條　異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十七條　異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第六十八條　稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條　訴願ヲ審査セシムル爲委員會ヲ設ク

第七十條　委員會ハ委員過半數出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

決議ハ出席委員ノ過半數ニ依リ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條　委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條　委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第七十三條　委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　罰則

第七十四條　輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條　關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

第七十六條　免許ヲ受ケスシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ前二條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條　貨物ト符合セサル積荷目錄ヲ提出シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條　第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條　第十條、第十一條、第十三條、第十五條、第十八條第二項、第十九條、第二十條若ハ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　第二十六條乃至第二十八條第四十條若ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條　第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十三條　本法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ犯則當時ノ所有者ノ所有ニ屬スル間ハ之ヲ沒收シ既ニ之ヲ讓渡若ハ消費シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ犯則者ヨリ徵收ス

第七章　犯則事件ノ調査及處分

第八十四條　稅關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條　稅關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　稅關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ著用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帶スヘシ

第八十八條　稅關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條　稅關官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ船車倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、鄰佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在テハ其ノ役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

前項ノ親族、傭人若ハ隣佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條　稅關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目錄ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條　臨檢搜索及物件差押ハ日沒ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得

ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十二條　稅關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作リ立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ

立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ

其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條　稅關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第九十五條　犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以內ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間內ニ履行セサルトキハ稅關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條　稅關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章　補則

第九十八條　船舶修繕ノ爲又ハ巨大重量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸シ難キ貨物ヲ陸揚スル爲必要ト認ムルトキハ當分ノ內稅關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得

第九十九條　從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百條　本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ稅關ノ休日ヲ算入セス

日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

第百一條　本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第百二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三條　明治十六年布告第四十號、特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號、稅關法、稅關規則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號其ノ他本法ニ抵觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

法律第六十一號參照

明治二十三年三月二十八日官報勅令第五十四號ハ對馬國佐須奈鹿見ノ二港ニ於テ韓國貿易ニ關スル帝國臣民所有船舶ノ出入及貨物積卸許可ノ件、同三十六年三月十五日官報法律第十三號ハ丹後國宮津港ニ於テ露領浦盧斯德港及韓國貿易ニ關スル同上ノ件、同二十七年五月二十二日官報法律第二號ハ越中國伏木港及後志國小樽港ニ於テ露領沿海州、薩哈嗹島及韓國貿易ニ關スル同上ノ件、同年同月同日法律第三號ハ琉球國那覇港ニ於テ淸國貿易ニ關スル同上ノ件、同二十九年三月二十日官報法律第十八號ハ開港外ニ於テ外國貿易ノタメ船舶出入及貨物輸出入ノ件ナリ

明治三十二年十一月十三日印刷
明治三十二年十一月二十日發行

（非賣品）

東京稅務管理局

印刷者　林精一郎
印刷所　東京市神田區錦町三丁目二十二番地

37
233

37
233